

機関名: (地独)北海道立総合研究機構水産研究本部

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成30年 10月～12月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: (地独)青森県産業技術センター水産総合研究所

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成30年 10月～12月	●青森県日本海沿岸の一本釣によるスルメイカの10～12月の漁獲量は13,910キロ(県統計速報値)で、不漁だった前年の45.7%、過去5カ年平均比16.5%と記録的な不漁となった。	特になし	特になし	特になし

機関名: 秋田県水産振興センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成30年 10月～12月	●9～12月のハタハタ漁獲量は沿岸漁287トン(過去5年平均比46%)、沖合漁306トン(同83%)、合計593トン(同59%)と低調であった。 特に、例年漁獲量の多い男鹿半島沿岸部での落ち込みが大きかった。	特になし	特になし	特になし

機関名: 山形県水産試験場

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成30年 10月～12月	特になし	●11月にサルバ大量発生時の兆しがあったものの、被害は短期で終息した。	特になし	特になし

機関名: 新潟県水産海洋研究所

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成30年 10月～12月	●定置網で小型ブリが不漁。 イナダ銘柄(1.7kg未満)の主要定置における10～12月の漁獲量は57トン(過去10年平均の16%)で100トンを下回ったのは2005年以来。 小ブリ銘柄(1.7～4.0kg)の漁獲量は3トン(過去10年平均の4%)で、昨年(2トン)に引き続き不漁であった。  ●サケの小型化 2018年の平均体重(2013～2017年の平均)は、3歳が2.68kg(2.76kg)、4歳が3.13kg(3.67kg)、5歳が3.87kg(4.48kg)であった。 特に4歳、5歳で小型化が顕著であった。	特になし	特になし	特になし

機関名: 富山県農林水産総合技術センター水産研究所

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成30年 10月～12月	●富山県沿岸の10～12月における合計漁獲量が4,701トン(過去10年平均比71%)で、1985年以降で最低の漁獲量となった。 ●2016年以降、3年連続で10～12月期に同じような低水準が続いている。 ●サケ来遊量が減少 H30: 28,103尾 (平年比37%)	特になし	特になし	特になし

機関名: 石川県水産総合センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成30年 10月～12月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 福井県水産試験場

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成30年 10月～12月	●ヒラマサ、シイラの12月漁獲量について、近年例がない大量の漁獲があった。 ・ヒラマサ: 49.7トン(前年1.9トン、平年7.2トン) ・シイラ: 118.7トン(前年7.4トン、平年3.2トン) 【平年: 2008～2017年の平均値】	特になし	特になし	特になし

機関名: 京都府農林水産技術センター海洋センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成30年 10月～12月	●スマ及びアカヤガラが定置網で集中的に漁獲され、スマの12月の漁獲量は約2トン(例年は数十尾)、アカヤガラの11～12月の漁獲量は約47トン(昨年同期約2トン)であった。	●沿岸定線観測による沿岸0～50mの水温は、10月ではかなり高め、11月ではやや高めであった。	特になし	特になし

機関名: 兵庫県農林水産技術センター但馬水産技術センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成30年 10月～12月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 鳥取県水産試験場

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成30年 10月～12月	●秋季におけるケンサキイカの漁獲量(19tイカ釣りを除く)が増加、10月は18.3トン過去5年比417% 11月は9.2トンで過去5年比1,704%であった。	特になし	特になし	特になし

機関名: 鳥取県栽培漁業センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成30年 10月～12月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 鳥根県水産技術センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成30年 10月～12月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 山口県水産研究センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成30年 10月～12月	●11～12月に調査船「かいせい」でヨコワ(クロマダコ未成魚)の釣獲試験を実施した。今年度の試験操業では、2kg未満の小型魚の割合が95%と高かった。漁獲を2kg以上に自主制限した関係から市場に水揚げされたヨコワは少なく、12月末時点で曳縄釣の漁獲枠67トンに対し、消化率は42%であった(昨年度は12月末で漁獲枠に達し終了)。	●H30.12.25に長門市大浦漁港で <i>Karenia digitata</i> 21,667cells/mlを確認し、赤潮警報が発令された(H31.1.4に警報解除)	特になし	特になし